

knocks! horikawa運営委員会

チーム

チームテーマ

夏休みや冬休みなどの長期休暇中の子ども（小中学生）向けプログラムの企画運営～子どもたちと楽しく交流しよう!～

主な活動場所

knocks! horikawa (堀川商店街内)

チーム紹介

knocks! horikawa運営委員会の皆さんと
京都府の大学生4人で堀川商店街にある居場所で地域住民と交流する
企画を実施しました!

メンバー

小谷琉月・片桐楓・立花実怜・寺尾ちさと

いろいろな大学、学部、取り組みをしている4人です!

活動紹介

- 「だれもがふらっと来て過ごせ、ホッとできる第3の居場所になろう!」を目標にし、大きく2つの活動に取り組みました
- 活動前に「居心地のよい居場所について考える」ワークをしました



フラットな関係性、
自分がいたいように居られる、
笑顔とあいさつ
が居場所として大切に
したいことと確認をしました

活動紹介

活動Ⅰ 堀川まつり

3

- ウィンナーやわらび餅の販売手伝いをしました
- knocks! horikawaや地域について知る機会として参加しました!



地域の子どもたちが
たくさんいて、
地域に愛されている
お祭りなんだと
思いました!

活動紹介

活動2 大学生と話す!遊ぶ!

3

- ミニゲームやシールづくり、質問コーナーなどをつくりました
- 企画から実施までやってみました!



いろんな世代の人と交流することが
できて楽しかった!
「高校選びって、どうやってしました
か?」という質問を小学6年生から
もらいました!

私たちが感じた魅力

SNSが発展して遠くの人とつながりやすくなった反面、
希薄になる近くの人とのつながりを構築できるところ。
自分が安心できる、一息つける場所。

当たり前のことのように難しい、「誰のことも等しく思いやる気持ち」
を持った団体であること。

私たちが感じた魅力

子どもからおじいちゃんおばあちゃんまでいろんな人が集まりやすく、
自分がいてもいいんだという安心感、
生活の中でのスパイスを得ることができた！

それぞれの得意な分野を活かせ、発揮できるところ。
自己満足にならないよう、双方にとってとても有意義な場づくりを
している団体だと思った！

私たちが感じた**団体や地域への影響・成果**

大学生企画では、遊びを通して交流を行い、年齢性別関係なく子どもから大人まで多くの人に「大学生」について知ってもらい、理解を深めてもらう機会となったこと。

地域の人と話す機会が増えた。
顔見知りが増えてより京都に安心感を抱くようになった。

私たちが感じた団体や地域への影響・成果

大学生企画では、大学生に気になることを遊びながら聞いてみるという時間で、これから高校、大学とあゆむ子どもたちの道しるべになったのかなと思っている。

また、お母さん、お父さん世代の人たちとの交流もあったので、近所の大学生がどんなことをしているのか、少しイメージをすることができたのではないかと思う。

子どもと大人が交流することによる刺激反応
(子どもの成長や大人の発見)が起きていると思う。

プロジェクトに参加しなければ出会えなかった人に出会えた!
knocks! horikawaを愛している人たち同士の連なりが
素敵だなと思った!その一員になれて嬉しい。

knocks! horikawaはやりたいことをやりたいと言い、
実現することを全力で応援してくれる人たちがいる環境があるのでは
と思います!そうした空間が全ての年代の人たちが成長していく場
につながっていると感じました。

自分たちが企画することのハードルが下がった!
自分が地域にどのように貢献できるのか、理解できた。

感想

地域の子どもから大人までさまざまな人たちが関わっていました。
私は地域の子どもと関われたらいいなと思っていましたが、
活動を通じて子どもだけではなく大人ともたくさん交流できて
楽しかったし、もっとたくさんのことを聞いてみたいと思った。

初めはうまくできるかな？と不安が大きかったけど、「うまくできなくてもやってみよう！」とサポートしながらも背中を押してくれる、
素敵なお方ばかりで安心して自信を持って活動を行うことができました。
地域の子どもとの交流も新鮮で、子どもにしか見えない新しい視点や
大学生になって忘れていた考え方に出会うこともできました。